

第5回平戸市行政改革推進委員会議要点録（配布用）

日 時	平成28年6月28日（火） 14:00～15:40
場 所	平戸市役所4階 第2委員会室
出席委員	別紙のとおり
事務局	松田総務部長、（行革推進課）平松課長、石田班長、長嶋主事

【次第】

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議事
 - (1) 平戸市公共施設等総合管理計画について
 - ・平戸市の公共施設等に関する市民アンケート結果報告
 - ・平戸市公共施設等総合管理計画の策定について
 - (2) 行政改革推進業務の主な取り組みについて
4. その他
5. 閉会

委員名	質疑等
事務局	定刻になったので、第5回平戸市行政改革推進委員会を始める。開会にあたり、事務局の人員が若干変更しているので紹介をする。今年度より、岡総務部長から松田総務部長、村田行革推進班長から石田行革推進班長に変わっている。行革推進課長平松と長嶋は去年度から引き続きとなる。また、本日は早田委員から欠席の連絡をいただいているので報告する。それでは、松永会長より一言あいさつをお願いします。
会長	皆様、本日はお集まりいただきありがとうございます。本日は、市民アンケートの結果等を事務局より報告いただくことになっている。今年の1月からひさしぶりの開催となるが、前回の内容を思い出しながら会議に臨んでいただきたい。 それでは、さっそくレジメ3. 議事（1）平戸市公共施設等総合管理計画について事務局より説明をお願いします。
事務局	○市民アンケートについて <ul style="list-style-type: none"> ・市内18歳以上を対象に、地区別年齢別の人口比率を考慮して実施 ・発送2500件に対して910件の回収（回収率36.4%） ・公共施設の利用状況で「利用しない」は17.8%～63.2%、「年数回程度」の利用を含めると、9割以上の市民がほとんど利用していない。 ・「利用しない」が過半数を超えた施設は、コミュニティ施設、スポーツ施設、レクリエーション施設、福祉・保健施設、子ども向け施設、文化観光施設であった。 ・比較的利用者が多い施設は、公民館・図書館、産業振興施設、行政施設であった。 ・ホール型施設の利用頻度に地域差が見られた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今後優先的に維持すべき機能は「集会機能」との回答が多かった。 ・今後見直すべき施設の特徴としては「利用が少ない施設」「老朽化した施設」との回答が多かった。 ・地区別に見ると優先的に維持すべき機能に特徴が見られた。 ・今後の公共施設に対して期待する施策としては「公共施設を人口や税収に見合った量に再編していく」という回答が多かった。 ・今後の公共施設に対して期待する取組としては「売却・賃貸による新たな財源確保」「統廃合・複合化による再編」という回答が多かった。 ・今後の公共施設の運営に対して期待する取組としては「施設を増やさず類似民間施設の利用に対して助成」という回答が多かった。 ・総括すると公共施設の利用頻度はどの施設分類でも低い傾向にあり、その理由の大部分が必要がないとの回答から、公共施設の供給過多の状況である。市民の半数以上が公共施設の問題を少しは知っており、将来は人口や税収に見合うように再編していくことが望ましいと考えている結果から、行政の方向性と市民意見は一致している。 <p>○平戸市公共施設等総合管理計画の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度、国の策定要請と市独自の取組みが重複した経緯があり、ハコモノについては平戸市公共施設適正化基本方針でまとめ、その他不足している項目を網羅した平戸市公共施設等総合管理計画を今年度策定予定 ・平戸市公共施設等総合管理計画策定の流れは、将来の維持更新費用の目標設定、個々の公共施設の評価、施設の方向性の決定 ・平戸市公共施設等総合管理計画の目次構成を提示
会長	<p>今の説明について、意見があればお願いします。</p>
委員	<p>アンケートの回答者の半数以上が60歳以上というのが気になる。また、地区別に集計しているが、これはその地区に住む人はその地区のことを考えて回答しているのか、市全体を考えて回答しているのかが気になる。このアンケート結果が市民の意向であると考えているのか。</p>
事務局	<p>アンケート報告書の48ページを見ていただきたい。若い世代にももう少し回答をいただきたいかったというのが正直なところだが、これは結果としてそのまま受けとるということで了承いただきたい。また、このアンケートは市全体の施設についてを対象として作っているので、地区別の施設がどうかということではなく、市全体の施設でどうかという回答だと考えている。</p>
委員	<p>26, 27 ページの個別結果を見ると、正しい回答結果なのか疑問に思えるところがある。大島地区についてだが、スポーツ施設は月1回以上利用という回答が2割ほどとなっているが、大島の的山グラウンドはほとんど利用されていないと思われる。レクリエーション施設、文化・観光施設、行政施設にしても、どの施設を想定して回答しているのかわからない。</p>

事務局	<p>アンケート回答者が何を思って回答したかは、このアンケートからは推測しかできない。あくまでも集計結果であるので、そこまでの分析はできない。</p>
委員	<p>要は、このアンケート結果をどのように活用するかということだ。このアンケート結果を市民の意向と行政の方向性が合っているかどうか確認するために使うのであれば良いと思うが、このアンケート結果から方向性を導こうとするのは間違っている。生月のホール施設の利用が少ないという結果にしても、利用促進や有効活用のための行政の働きかけは何もない。アンケート結果からホール施設の利用が少ないから方向性をこうするというのではなく、まずは行政が利用促進を図るなど方向性をどう考えているのかということが重要である。その辺りも踏まえて、例えば議会で施設の方向性について尋ねられたときに、市民の意向を説明する資料としてこのアンケートを使うのは有効である。</p> <p>また、アンケート回答者の過半数が高齢者ということだが、高齢者が施設を利用するケースは何かの団体に連れられて利用するケースが多い。つまり、自ら施設を必要としていない者が多いアンケート結果になっていると推測できる。将来の施設をどうしていくかということを考えると、本当に重要な50代以下の意見がきちんと反映されていないのではないかとというのが気になる。行政のスタンスとしては、高齢者の意見よりも、将来を担う者の意見を尊重するというスタンスが必要ではないかと思う。アンケートとしては尊重するが、利用方法を誤らないでいただきたい。</p>
委員	<p>生月は施設が充実しているという印象だが、成人式も統一されているので、開発センターの利用はますます減っていくのかなと思う。利活用をどうやって図っていくのか、利活用が図れない場合そのままにしても維持管理費がかかる。住民の意見を反映し丁寧に進めていく必要があると、このアンケート結果を見て感じた。</p>
委員	<p>施設の利用についてだが、行政側から利用方法を市民に周知しているか。例えばナイターを利用する場合は、コイン方式や直接窓口に支払う方法があるが、そういったことを知らなければ利用したくてもできないので、利用率が低いというケースがあるのではないか。</p>
事務局	<p>施設の直接の担当課ではないので詳しいことはわからないが、イベント等であれば広報誌等でお知らせはしている。通常の利用方法については十分周知されていないと感じるので、利用率を上げるためにも必要なことだと思う。</p>
委員	<p>利用されていないからという視点だけでなく、利用されている施設はなぜ利用されているのかという視点も必要である。建物の広さ、距離、利用団体等さまざまな要因があると思うが、それらを整理してモデル化すれば、利用されていない施設の利用促進を図ったり、統廃合したりするヒントになるのではないか。</p>
事務局	<p>このアンケートでは個別施設のそういった状況はわからないが、その辺りを整理していければ、今後の公共施設の方向性を導くことにも繋がると思う。</p>

委員	その辺りの分析がアンケート結果からはわからないのであれば、まちづくり運営委員会の中で、なぜこの施設は利用されないのか、どうすれば利用されるのかという議論をしてもらって、その意見を集約したらどうか。
委員	ソフト（利用目的）があって施設があるものだと思っているが、ソフトに対して施設が過剰だと感じている。週に数回しか稼動しない施設であれば、2個が1個になっても特に問題ないと思う。田平について言えば、田平活性化施設と田平町民センターという同規模で同じような施設がある。両施設とも利用されているのだろうが、2個ある必要性は感じない。まして、田平支所の3階は空き部屋となっているようなので、町民センターの機能を全て活性化センターと支所に集約しても良いのではないかと思う。肝心なのはその地域でこれだけソフトがあるので、これだけ施設が必要だということを整理することだと思う。また、先ほど高齢者の施設利用について、自発的というより何かの集まりがあるから利用しているというケースが多いということなので、どういうサークルがあって、どういう利用がされているのか把握することから始めるべきだと思う。
委員	整理整頓するのが行革の目的であるが、それに伴って雇用が失われる可能性も考えていただきたい。多くはないだろうが、施設管理の仕事をしている人は施設の統廃合で職を失う可能性がある。
事務局	スリム化は当然図っていかねばならない課題ではあるが、十分分析して進めていくようにとの指摘だと理解している。
委員	公民館等の集会施設については担当課で利用状況を把握しているはずなので、資料を集めて次回委員会で提出いただきたい。施設が足りているのか足りていないのかそれを見れば、もう少し議論ができる。
委員	スケジュールを見ると12月にはパブリックコメントというタイトなスケジュールになっているので、丁寧かつ大胆に進めていかねばならない。
委員	統廃合するにしても、公共施設を使ってもらうためにはどうすればよいかという視点が重要。どういう条件であれば、統合された施設を利用してもらえるのかということを考えれば、もっとスピードアップして進めていけると思う。
事務局	統廃合が一つのポイントになってくるが、利用促進を図れる施設なのか、そうでない施設なのかという見極めも重要だと思っている。
委員	統廃合する施設については、早め早めに市民に周知していただきたい。生月の斎場についても、突然廃止という話がでてきて、市民からの反対があっている。市政懇談会のタイミングで伝えようとしても遅い。具体的に施設の方向性が決まったら、随時市民に情報発信していただきたい。

事務局	<p>具体的な施設名については、総合管理計画のアクションプランで示していくことになる。総合管理計画では、この施設分類はこういう方向性であると示す形での作りこみを想定しているので、方向性については早めに周知していく。</p>
委員	<p>大きなところで大人数集まるというより、地区ごとに集まっての行事が多くなっている。その良い例として、度島のまちづくりがあげられる。今度、全国市長会の会誌の中でも度島モデルが取り上げられると聞いている。まちづくりは、地区の人たちだけではどうすればよいかわからず進まないが、社会福祉協議会職員が手伝って一緒にまちづくりのとっかかりを考えて実施することで、地区の人たちで自主的にまちづくりをしてもらう取組みである。この活動拠点は地区の公会堂であり、集会場である。こういう活動が広がって、公民館の利用等にも繋がっていけば良いと考えている。</p>
委員	<p>生月も館浦、山田地区でまちづくり運営協議会が動き始めている。小学校区単位での活動を想定しているが、人数が集まらないので中学校区単位での活動が良いという意見もある。</p>
委員	<p>公会堂や公民館は畳の部屋が多く、立ったり座ったりが困難なお年寄りには使いづらい。社会福祉協議会では、各地区からの申し出により、座イスのようなものを提供したりしている。公会堂や公民館の利用が活発になってくれば、そういったサポートは可能である。</p>
委員	<p>公会堂や公民館の利用を活発にするという前提条件が非常に難しい。度島が成功しているというのはわかるが、まちの行事に若い人が携わらなくなっているのが現実である。やはり、自主的に使いたいと思わなければ施設の利用は低くなる一方だと思う。まちの行事を推進していけば施設の利用が高まるというのは、現実的に考えると難しい。</p>
委員	<p>地域に住む方々が中心となって行事や活動をやっていけば、その活動が子どもたちにも広まっていくのではないだろうか。私たちは、こういう活動を支援していきたいと考えている。</p>
委員	<p>施設が利用されていない理由の一つに、施設の設備が不十分ということもあるかもしれない。先ほどの話であった座イスにしても、和式トイレにしても、利用しづらいから利用されていないという可能性もある。先ほど、利用されるためにはどうすればよいかという視点が大事だという話もあったように、このことについても考えていかなければならない。</p>
会長	<p>施設の環境整備によって利便性が高まるのではないかということである。伝統行事についての話にまで発展したが、事務局の意見を願う。</p>
事務局	<p>旧平戸にある公民館は地区所有物ということで、今回の総合管理計画には直接関</p>

	係するわけではないが、生月や大島には市所有の活性化センター等があるので、今後はまちづくりの推進と関連付けて考えていかなければならないと感じた。また、施設的环境整備についても、統廃合を進めながら利用を高めていく上で重要だと考えている。総合管理計画の内容にも反映させていきたい。
委員	アンケート結果で、類似民間施設の利用について助成していくべきという意見が多いので提案する。平戸にはお寺や教会といった施設が多いので、そこを集会施設として利用できないか検討いただきたい。
事務局	お寺や教会の理解が得られないといけませんが、検討したい。
会長	他に意見がなければ、レジメ 3. 議事（2）行政改革推進業務の主な取り組みについて事務局より説明をお願いします。
事務局	行政改革推進委員会についてスケジュール説明。 <ul style="list-style-type: none"> ・本委員会と平行して、課長級で組織する行政事務改善委員会、部長級で組織する行政改革推進本部会議を開催していく。 ・本委員会では、行政改革推進計画の進捗管理、中期プランの策定、公共施設等総合管理計画について議論いただく。 ・今年度は全 4 回の開催を予定しており、次回以降は 8 月、10 月、2 月の開催を予定している。 ・行政改革推進計画の進捗管理については第 3 回委員会に報告予定。 ・中期プランの策定については第 3 回委員会にてたたき台を提出予定。 ・公共施設等総合管理計画については第 2 回委員会にてたたき台を提出予定。
会長	報告までということなので次に進める。レジメ 4. その他について、委員から何か意見はあるか。
委員	国、県、どの行政単位で見てもそうだが、計画を作ることが目的になっていることが多い。きちんと進捗管理を図って計画を実施してほしい。
事務局	計画を作ったあとの進捗管理についての体勢が整っているかということだと思う。行政改革推進計画については、毎年実績報告を各課から提出してもらい、部長級で組織する行政改革推進本部会議で検証することになっている。総合管理計画も、その辺りの進捗管理を図る方針というのは定めていく。
会長	進捗管理の頻度はどの程度か。
事務局	スケジュールにも書いているが、年 4 回を想定している。
委員	社会福祉協議会などの外郭団体、区長、民生員、PTA など一丸となって、高齢者も若い人も地域の中で活動できるような、新しい仕組みを作っていきたい。ある

	<p>いは、その地域のリーダーを育成することが必要だと思う。そうすれば、自ずと施設の利用もあがっていくと思う。</p>
委員	<p>昨年秋に生月町の館浦、山田、壱部で青年団が結成された。イベントごとは青年団を中心として、周りの団体がサポートするという体制で動いている。今年度の青年団の取組み成果を、本委員会のどこかで報告できればと思う。</p>
委員	<p>地区で開催する運動会は、子どもから高齢者まで参加している。地域が一体になって活動をするイメージはこういうものだと思う。</p>
委員	<p>運動会の話はわかるが、やはり自主的な活動でなければ続かない。平戸瀬戸市場ができた時に、行政と若者が一緒に田平地区活性化協議会を立ち上げ、様々な活動を実施したにも関わらず、1年で終わってしまった。リーダーとして引っ張っていく人もいたが、周りがついてこないというのが現実だった。話がまちづくりの方向に行っているので公共施設に戻すが、公共施設の利用状況、この部屋がどういう使われ方をしているかということまで資料にまとめて次回委員会で説明いただきたい。</p>
事務局	<p>各委員の話聞いて、このアンケートが少し大雑把すぎたと感じている。地域ごとに拠点となる施設は必要だし、利用されていないから廃止するというにはならない。地域を活性化させたいという話だが、行政としても支援していきたいと考えている。地域が活性化すれば、施設の利用も増える、利用が増えれば廃止するという論議もでてこない。また、個々の施設についての議論も必要だと思うので、施設の利用状況については整理し次回委員会でお示しする。</p>
会長	<p>よろしく願います。もう少し時間もあるようなので、何かあれば願います。</p>
委員	<p>運動会の話に関連して、平戸市全体の大運動会を開催できないだろうか。花火大会で大盆踊りをするとか。夢のような話ではあるが、平戸市が一つになる大きな行事があればいいと思う。施設の利用についても、各地区の施設は各地区だけが使うということではなく、平戸市という視点で広く利用されていけたらいい。</p>
委員	<p>若い世代にまちの活性化を図る行事に参加してもらうよりも、よっぽど現実味がある。こういうことをきっかけに、まちが活性化していく可能性もある。</p>
委員	<p>行政に委ねるのではなく、私たちが作りあげていかないといけないといけない。</p>
委員	<p>リーダーがなかなかでてこない。</p>
委員	<p>リーダーも含めて、私たちが作りあげないといけない。</p>
委員	<p>自分たちでやるという機運を高めていきたい。そういう意味で、区長や民生員の</p>

	<p>方々ところという話をしていければと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>運動会の話で言えば、主導は体育振興会が行い、行政は交通手段を用意するなどの支援をしてもらえたら助かる。</p>
<p>委員</p>	<p>小中学校は市全体の陸上競技大会があっているし、そういう感じでできればすばらしい。</p>
<p>委員</p>	<p>地域が活性化すれば行政がやっていることも自然と地域でできるようになる。それができていないので、まちづくりのための組織を作って仕掛けを考えていると思う。ただ、会議だけではなかなか意見がでないので、飲みの席でざっくばらんに話す機会も大事だと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>そろそろ時間なので、次回の開催は8月下旬ということである。各委員は予定を空けておいていただければ助かる。以上で第1回平戸市行政改革推進委員会を終了する。</p>

平戸市行政改革推進委員会委員（名簿）

区分	氏名	所属・企業名	地区	職務	出欠
学識経験者	松永いづみ	松永いづみ税理士・行政書士事務所	平戸	会長	○
企業経営者	福田 詮	福田酒造（株）	平戸		○
	井元 宏三	（有）マルイ水産商事	生月		○
	吉永 享助	（有）平戸口 吉善商店	田平		○
市民代表者	黒崎 洋介	平戸市地域審議会委員	平戸		○
	岩井 誠	生月町地域協議会委員	生月	職務代理者	○
	早田 博子	田平町地域協議会委員	田平		×
	田中 範子	大島村地域協議会委員	大島		○
	松口 茂生	平戸市PTA連合協議会	平戸		○